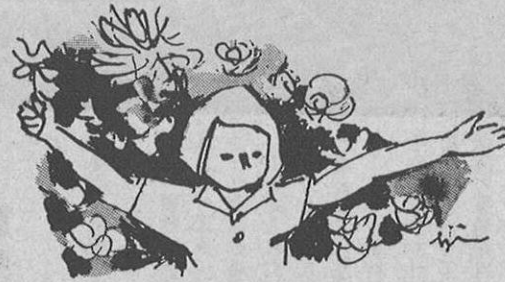


前進する新生活運動

「1市町村1運動」など

今年度の事業計画きまる



過去二年間にわたる本県の新生活運動は、指導者の養成、実践体制の強化、自主的意欲の高揚などに基礎的な面に重点をおいて推進してきたが、一応末端までこの運動がゆきわたり、県下全域にわたつての基盤ができたといえる。

そこで、今年度はこの運動を更に広範囲に伸ばしてゆき、「一市町村一運動」「明るく美しい熊本」などのスローガンを掲げ、更に各郡毎に運動推進員をおくなど、いよいよ名実ともに県民総運動として展開することとなった。

一市町村一運動

県民みんなて……………★

一職場一運動

これは県下の全市町村、各職場で、それぞれに適した新生活運動の実践項目を一つ設け、これを深く掘り下げて徹底的に実践しようというものである。これによつて県民一人も洩れなくこの運動に参加するという県民総運動の意識の高揚をはかるわけである。

この運動の実態を、明年一月一二月の間にアンケート方式で調査を行い、各郡から一団体、又、職域から若十の優良団体を選定して表彰する事も計画されている。

明るく美しい熊本

街には花を、

環境は清潔に……………★

熊本県を訪れる観光客は増える一方。阿蘇国立公園の整備、熊本駅の新築、有

設計に基く貯蓄の増加、清潔な環境の実現などの事業を推進するもので、いわば家庭の新生活運動総合版ともいふべきもの。

昭和三十三年 熊本県新生活運動指定地区

実践課題	地区名
栄養及び食生活改善	上益城郡御船町木倉
善	八代郡竜北村網道
家族計画、母子衛生	鹿本郡鹿央村山内
生	飽託郡託麻村供合
蚊とはえのいない生活実践	天草郡倉岳村
貯蓄増強	天草郡五和町大島
青少年保護育成	菊池郡旭志村
結婚改善	人吉市上青井町
新生活総合推進	宇土郡宇土町校区
環境美化	阿蘇郡阿蘇町跡ヶ瀬
特別指定地区	玉名郡横島村
	熊本市 (全市にわたる)
	芦北郡田浦町小田浦

各都市に推進員を

運動推進の尖兵に……………★

これまではなかつたものとして「運動推進員」がある。各郡に一名宛委嘱して、地域の運動推進と、県協議会との連絡に当つてもらふもの。推進員には郡協議会の事務局長をあてるが、郡協議会は現在僅かに五郡しか設けてないので、早急にその結成をすゝめ、結成次第委嘱することになった。

明るい社会をつくるために

道義高揚九州ブロック研修会



空路ブラジルへ向う桜井知事……………★
ブラジルのサンパウロで6月18日行われる本人移民の50年祭に列席するため、桜井知事は去る6月8日午後9時30分、日航のダグラスDC-6Bで羽田を出発しました。

公衆道徳の高揚をはかり、明るい社会をつくりあげるため、その実践的指導者の研修を八月中旬、熊本市で行う予定である。

これには九州各県の婦人会、青年団、公民館、新生活運動協議会の職員などが集り、中央の協会から講師を招いて、公衆道徳高揚のための各種事業活動、行事等を行うにあつて考慮すべき問題点やその方法、マスコミュニケーションの在り方について新生活運動の立場から何を要望するかということについて研究する。又、このほか、昨年と同様教育庁と共催で各郡一カ所計十二カ所で「指導者研修会」を開催することになった。

展開する各種行事

新生活映画も購入

以上のほかに、夏期八月初旬と冬期十二月下旬には例年のとおり旅の新生活運動、八月と十二月一には中元・年始年末の自粛運動、九月から十月中旬までの間に熊本市で新生活展、明年一月下旬には熊本市で指定地区の実績発表大会を開催する計画である。

又、啓蒙資料として、優良地区の実例をとらえたスライドを製作するほか、新生活映画も三本購入して各地で上映する。そして、今年には特に広報活動に力を注ぎ、ラジオ放送や、写真画像の複製、広報くまもとに「新生活の頁」の新設、ポスターやリーフレットの配布、一般新聞への記事登載など、あらゆる方法を通じて、新生活運動の広報活動を強力に行うことになった。

新生活ニュース

熊本県新生活運動協議会と読売新聞社共催の第七回新生活モデル団体選定で、つぎの三団体が選ばれ、それぞれ協議会長賞と読売新聞社賞を贈られました。
(総合部門)
芦北郡津奈木村新生活運動協議会
鹿本郡植木町みのり会
(食生活部門)
牛深市なぎさ会

ちかまる

漁師さん達の選挙

海区漁業調整委員も公明選挙で……………

現在の海区漁業調整委員の方々は、第二次漁業権切り替え後の、漁業調整の問題、入漁調整の問題、他県との入漁問題などの難問をばはじめとして、県水産業の為に大変な御苦労でした。ところで、この委員さん方の任務もこの夏限り。来る八月十三日頃、第五期の新委員の選挙が行われる予定です。この新委員さん方にも、流網漁業と延縄漁業との漁業紛争調整等大きな問題が待っています。そのほか、漁業者の身近な問題と取り組んで、安定した漁業を続けられるよう尽力願うわけです。

このように重要な仕事もやつて貰う委員さんを選ぶ選挙ですが、過去四回の選挙をふりかえてみると、残念ながら、中には「一地盤協定」を結んで、無投票にもつていった海区がありました。なお今度の選挙には、こんな人は排除したいもの。即ち、あまりにも地元利益代表的色彩の濃い人や、大多数の漁民の利益とは反対に、単に一漁村又は極く一部特定の漁民の利益だけを代表するような人です。そうして、ほんとうに不偏不党、熊本県の漁業全体の為に尽し得る有能な人を選びたいものです。今後の漁業がうまくゆかゆかないかは、この委員選挙の一票次第というわけです。厳しい眼をもって、漁民の幸福の為に明るく正しい選挙をいたしましょう。